

平成 27 年度
学校自己評価報告書

平成28年6月1日



I. 基本方針

建学の精神であるモラロジーに基づく道徳教育を柱に、教科指導・進学指導の強化と部活動の充実、並びに生徒数、特に寮生数の増加を目指して、以下の諸項目を重点目標として諸施策を実施する。

II. 重点目標

- (1) 法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行する。
- (2) 生徒数の安定確保と収支構造の改善を目指す。
 - 1) 一般社会で広く選ばれる学校として、全国的な広報活動を展開する。
 - 2) 寮生確保のため、公益財団法人モラロジー研究所との協力体制の構築を一層推進する。
 - 3) 生徒数の増加と人件費の削減によって、教育活動収支の改善を目指す。
- (3) 寮教育の充実と環境改善を行う。
 - 1) 高校男子寮の諸設備の改修を実施して、寮の居住環境の改善を図る。
 - 2) モラロジー教育に基づいた教育プログラムを整備して、寮教育の一層の充実を図る。
 - 3) 寮での夜間学習指導体制の一層の確立を図る。
- (4) 教科指導・進路指導の一層の充実を図る。
 - 1) 中高一貫を通じた教科指導体制の整備を図る。
 - 2) 選抜性の強い大学に挑戦できるように、授業や進学講座の内容を一層充実させる。
 - 3) 道徳科による道徳教材の開発や整備を推進して、道徳の授業の充実を図る。
- (5) 部活動の環境整備と強化を行う。
 - 1) 全校生徒が意欲を持って取り組めるように、部活動の指導体制と環境整備を図る。
 - 2) 強化指定部が全国大会に出場して成果を出せるように、一層の環境整備を図る。
- (6) 教職員の資質向上を推進する。
 - 1) 教職員を対象としたさまざまな研修を充実させ、教職員の資質向上に努める。
 - 2) 本校の次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。

III. 中期計画の実行に関する事項

- (1) 生徒の安定的確保
 - 1) 募集目標数の達成
平成 21 年度の 779 人をピークに 3 年間でおよそ 100 人減となった生徒数は、25 年度に減少が止まり、26 年度は対前年度 20 人増となった。27 年度は、当面の募集目標数である 765 人（中学生 225 人、高校生 540 人）に向けて募集活動の強化と改善を図り、平成 28 年 4 月時点で 740 人（中学生 240 人、高校生 500 人）の生徒数を確保する。
 - 2) 広報力の強化
平成 26 年度に委託をした三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社による調査と提案を参考にして、効率的なマーケティング・市場開拓を行っていく。特に寮生の募集については、麗澤会員への広報や、公益財団法人モラロジー研究所の協力の下で、同研究所維持員・地方責任者への情報発信にも努めていく。
- (2) 教育の充実
 - 1) 寮の収容定員の充足
平成 27 年度の寮生数は 393 人（中学生 100 人、高校生 293 人）であったが、目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて全国的な広報活動を行う。特に新設の兄

弟姉妹・卒業生対象の寮費減免制度などを活用して寮生の一層の確保に努める。

2) 寮指導体制の改革

寮を担当するチューターの勤務体制の改善を図り、適正な勤務時間の確立に向けて引き続き検討を重ねる。また、本校の教育理念を体現した指導方法を整えるために、指導マニュアルの作成を行う。

3) 中高一貫体制の構築

学力の向上と進学実績の向上を目指して中高一貫教育体制を整え、英語や数学などの教科の先取り学習と習熟度別学習を展開する。

4) グローバル人材の育成

ホームルームや総合学習の時間を活用して、日本人としての誇りと自信を持ったグローバルな思考のできる人材の育成に努める。また、3年生のオーストラリア研修や5年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムの充実と改善を推進する。

5) 特色ある学校行事の創設

平成25年度に創設したプロジェクト委員会の答申に基づいて、年間を通した学校行事の見直しを行い、建学の精神と愛校心の涵養、道徳教育実践の機会としての行事の導入を引き続き検討する。

(3) 経営改革

1) 教育活動収支の赤字幅の削減

教育活動収支が悪化して赤字幅が膨らんでいるので、生徒数の増加と業務の効率化による人件費の抑制により教育活動収支の改善を目指す。赤字幅の縮減がどこまで可能か不明確な部分が多いが、生徒数の増加が見込めれば、収支の改善は順次達成可能となる。

IV. 重点目標と評価

建学の精神であるモラロジーに基づく道徳教育を柱に、教科指導・進路指導の強化と部活動の充実、並びに生徒数、特に寮生数の増加を目指して取り組んできた。平成27年度は高校3年生（6年生）の生徒数が少ない年度（127人）であったので、進学や部活動で従来の成果をあげることは難しいと想定していたが、それぞれで実りのある活動を展開することができた1年であった。

| 所管部・担当 | 事業計画 | 評価 |
|---------------|---|--|
| 校長・教頭 事務部長 | 1. 法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行する。 | 法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行することについて、概ね、法人の中長期計画と整合した方向で事業を実施できた。 |
| 校長・教頭 事務部長 | 2. 生徒数の安定確保と収支構造の改善を目指す。 (1) 一般社会で広く選ばれる学校として、全国的な広報活動を展開する。 (2) 寮生確保のため、公益財団法人モラロジー研究所との協力体制の構築を一層推進する。 (3) 生徒数の増加と人件費の削減によって、教 | 1) 広報部を設置して3年目となり、広報活動の手法について改善が見られたが、全国的な展開については不十分であった。 2) 公益財団法人モラロジー研究所との協力体制の構築については、学校情報誌等の地方モラロジー事務所への送付などにおいて、モラロジー研究所から全面的に協力を得ることができた。 3) 生徒数の増加については、受験者数の増加を |

| | | |
|---------------|---|--|
| | 育活動収支の改善を目指す。 | 通じて学校全体の生徒数を増やすことができた。 |
| 校長・教頭 事務部長 | 3. 寮教育の充実と環境改善を行う。 (1) 高校男子寮の諸設備の改修を実施して、寮の居住環境の改善を図る。 (2) モラロジー教育に基づいた教育プログラムを整備して、寮教育の一層の充実を図る。 (3) 寮での夜間学習指導体制の一層の確立を図る。 | 1) 高校男子寮の諸設備の改修を実施して、寮の居住環境の改善を図ることができた。 2) モラロジー教育に基づいた教育プログラムの整備については、引き続き取り組んでいきたい。 3) 夜間の学習指導については、多くの教員の協力のもと、中学高校男女すべての寮で、定期試験前の夜間学習指導をすることができた。 |
| 校長・教頭 事務部長 | 4. 教科指導・進路指導の一層の充実を図る。 (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業内容の確立を図る。 (2) 選抜性の強い大学に挑戦できる授業、進学講座の内容を確立する（高等学校）。 (3) 電子黒板等の IT 機器を用いた効率的・効果的授業を開発する。 | 1) 中高一貫を通じた教科指導体制の整備については、プロジェクトを中心に何度も会議を重ねて取り組むことができた。 2) 選抜性の強い大学に挑戦できるように、授業や進学講座の内容の充実に努めた。 3) 道徳科による道徳教材の開発や整備については、各学年の授業案を学校のホームページにアップするなど、徐々にではあるが進めることができた。 |
| 校長・教頭 事務部長 | 5. 部活動の環境整備と強化を行う。 (1) 全校生徒が意欲を持って取り組めるように、部活動の指導体制と環境整備を図る。 (2) 強化指定部が全国大会に出場して成果を出せるように、一層の環境整備を図る。 | 1) 全校生徒が意欲を持って取り組めるように、部活動の指導体制と環境整備を図ることができた。 2) 強化指定部の強化については、剣道部以外の部活動については十分ではなかったが、陸上部をはじめ多くの部活動である程度の成果を収めることができた。 |
| 校長・教頭 事務部長 | 6. 教職員の資質向上を推進する。 (1) 教職員を対象としたさまざまな研修を充実させ、教職員の資質向上に努める。 (2) 本校の次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。 | 1) 教職員を対象とした講話や研究会、大手塾の講座などに参加することによって、多くの教員がスキルアップを図った。 2) 教職員の確保については、新規採用を目指して多くの応募者との面談や筆記試験を行ってきたが、今後も有能な教職員の確保は本校の大きな課題である。 |

V. 主な事業計画と評価

| 所管部 | 事業計画 | 評価 |
|-------|---|---|
| 教科指導部 | 1) 各教科で新学習指導要領に準拠した新しい教科書の読み合わせを行い、授業の計画と実施をする。また、長期休暇を含めて、生徒に課す宿題内容を各教科で連携して調整し、自習能力の一層の向上を図る。 2) 大学入試や実力試験の成果が上がるよう、研究授業や公開授業などを通して教授能力の向上を目指す。また、各科目の学年担当者間 | 1) 新課程完全実施を意識した授業展開を、計画的に実施できた教科が多くみられた。学期中、長期休暇を含めて生徒に課す宿題や課題を通して自習能力の一層の向上が図れ、大学入試や実力テストでの成果につなげることができた。 2) 公開授業と研究授業を通して、電子黒板やタブレットを活用した近未来の授業展開の研究 |

| | | |
|--------|---|--|
| | <p>で教授内容の検討を図って整合性のあるものにしていく。さらに、習熟度別授業の在り方についても検証し、改善を加え成果を出していく。</p> | <p>や、実力のつく授業づくりに各教科で積極的な研修に努めた。また、習熟度別授業の在り方について、高校では、同一テスト内での習熟度の差を、追加問題を上位層に出題するなどして工夫をすることができた。中学では上位層の先取りを意識して、高校分野に踏み込んだ授業を展開した教科もあった。</p> |
| 担任部 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 道徳教育と進路指導の2本柱を中心としたホームルーム年間計画を学年で主体的に計画し、各指導部の助力を受けながら、生徒の向上心と学習意欲を育てるホームルーム活動を推進する。 2) 生徒の状況や心情的確な把握と迅速な対応を心がけるために、デイリーライフの活用(中学校)、面接週間やクラス通信の充実、週報を活用した生徒指導連絡会での報告の徹底とチューター等との連携の強化を図る。また、学年主任のリーダーシップの下、各学年担当者会を開催して進路指導・生徒指導の情報収集と発信・共有に努める。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 1年生から6年生までのホームルーム年間計画が整備され、学年主任会で確認・調整がスムーズにできるようになった。特に、1・3年では担任の主体的な取り組みにより、積極的な生徒指導・進路指導が実施され、コース制発足に向けて大きく前進が見られたように思われる。 2) 生徒指導連絡会は、部活動・寮生活・健康面・食事指導・生徒指導など多岐にわたる有機的な情報交換や意見集約・方針確認の場として充実が図られている。また全体として、クラス担任による指導が質・量ともに厚くなり、生徒と学校との信頼関係が強化されている。 |
| チューター部 | <ol style="list-style-type: none"> 1) モラロジーに基づく寮教育の推進のため、指導マニュアルを作成し、全チューターが共通指導に努める。 2) 生徒用の『寮生活のしおり』を作成し、モラロジー教育の浸透を図る。 3) 教職員による寮生対象の夜間学習を推進する。 4) 高校女子寮生との情報交換を密にしながら、寮の個室化に伴う学習体制や環境整備について一層の改善をしていく。 5) 全寮のエアコン完備に対して、その使用についての考え方やルールを整備するとともに、寮生の健康指導を充実させる。 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 毎朝チューター間で情報交換を行い、連携を密にした。また、寮生活のしおりの見直しを行い、合わせて、チューター業務の確認をした(来年度中・高マニュアル化)。今後もチューターの資質向上を更に図るよう努める。 2) 寮役員研修・学年別研修は順調に行うことができた。寮役員、部屋長、各係の育成に今後も努めていきたい。 3) 環境整備については、高校男子寮・女子寮の改修があり快適な生活環境となった。今後も維持し、見回りや点検を継続する。 4) 保護者への通信ハガキは、ほぼ計画どおり送ることができた。チューターもコメントを添えることによって保護者の安心満足度の向上に寄与しており、来年度も継続する。 5) テスト週間中の教員による夜間学習を行い、効果が見られたので来年度も継続する。学習係活動での学習時間調査も継続して行い、学習時間増加に繋がっている。中学寮では自習時間中、生徒を一か所に集めてチューターの監督による学習指導を行った。 6) 部活寮においては、競技力の高い生徒の確保と育成を図ることが可能となってきた。テニス部専用の部活寮を新たに設置した。剣道部寮は、寮と部活の一体化した指導が実を結び、特に大きな業績を収めた。 7) 全寮・各室にエアコンを設置するとともに、 |

| <p>教務部</p> | <p>1) 中高一貫を通じた教科指導体制の整備に向けて、教育課程・年間行事計画・時間割作成等の面からサポートする。</p> <p>2) 国際交流活動の一層の充実を図るために、留学生の受入れ及び派遣、3年生の海外研修旅行、5年生の台湾修学旅行などの円滑な実施をサポートする。</p> | <p>利用ルールを作成して教育的な工夫をした。</p> <p>1) 多治見地区の教務主任会議に定期的に出席し、近隣各校の教育課程作成や授業実践について情報交換を行った。また、第2回教務主任会議の研究発表において、「特色ある学校行事」と題して、本校が8月に実施している皇居勤労奉仕について紹介した。</p> <p>2) 28年度からのコース制導入に伴う中高一貫教育課程編成のため、中高一貫プロジェクトと連携してカリキュラム作成に助力した。</p> <p>3) 3年生のオーストラリア研修の企画について、国際交流係を中心にサポートした。また、国際交流係の若手メンバーに、これらの業務を積極的に分担することによって、国際交流スタッフとしての力量を高めてもらうことに努めた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|------|----|----|-------|----|-------|------|----|-------|---------|---|------|---------|---|------|----|---|------|----|---|------|-----------|---|------|----|---|------|----|-----|--|
| <p>進路指導部</p> | <p>1) 国公立大学や難関私立大学の合格者を多数輩出するため、選抜クラスの指導を強化する。特に、指導教員が大学入試センター試験や各大学の個別試験に精通する実力を養えるように支援をしていく。</p> <p>2) 各学年に応じた有益な進路情報を定期的に発信する。特に進学クラスの生徒に対して、大学情報や多様な受験方式などを紹介して、より高いレベルに挑戦する意欲を喚起する。</p> <p>3) 大学の推薦入試に対する小論文指導や面接指導を抜本的に見直し、全校体制で取り組む。</p> <p>4) 中高一貫の進路指導計画を見直し、特に中高一貫生の進路意識を一層高める。</p> | <p>1) 大学入試センター試験後の国公立大学の2次試験や私立大学の一般試験対策として用途に合わせて14種類の「特講」を開講した。英作文や小論文に対しては個別指導を行った。また、教育研究セミナーには18人が受講し受験指導の実力を磨いた。</p> <p>2) 学年別に「進路便り」を発行し、学習意欲の喚起に努めた。また、「センター試験特集号」を発行して、各科目担当者による分析と対策を4・5年生全員に配布した。</p> <p>3) 麗澤大学による「大学出張講義」と「小論文指導」を計6回実施し、中学生も多数参加した。また2・3年生を対象とした名古屋大学教授による「プレミアム講座」を4週連続で開講した。</p> <p>4) 平成27年度卒業生(127人)の確定進路状況は以下のとおりである。</p> <p>◎平成27年度卒業生(127人)の確定進路状況</p> <p><確定進路></p> <table border="1" data-bbox="927 1608 1386 2047"> <thead> <tr> <th>確定進路</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国公立大学</td> <td>24</td> <td>18.9%</td> </tr> <tr> <td>私立大学</td> <td>79</td> <td>62.2%</td> </tr> <tr> <td>国公立短期大学</td> <td>6</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td>専修・専門学校</td> <td>6</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>7</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>留学</td> <td>1</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>その他(予備校等)</td> <td>2</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>未定</td> <td>2</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>127</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 確定進路 | 人数 | 割合 | 国公立大学 | 24 | 18.9% | 私立大学 | 79 | 62.2% | 国公立短期大学 | 6 | 4.7% | 専修・専門学校 | 6 | 4.7% | 就職 | 7 | 5.5% | 留学 | 1 | 0.8% | その他(予備校等) | 2 | 1.6% | 未定 | 2 | 1.6% | 合計 | 127 | |
| 確定進路 | 人数 | 割合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国公立大学 | 24 | 18.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 私立大学 | 79 | 62.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国公立短期大学 | 6 | 4.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専修・専門学校 | 6 | 4.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職 | 7 | 5.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留学 | 1 | 0.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他(予備校等) | 2 | 1.6% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未定 | 2 | 1.6% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 127 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---------------------|--|---|
| | | <p>◎主な合格大学（ ）の数字は過年度生 内数</p> <p>【国立大学】</p> <p>大阪大、名古屋大、九州大、東京外語大、国際教養大、茨城大、宇都宮大1（1）、埼玉県立大、金沢大、静岡大、浜松医科大、静岡県立大、信州大2、長野県立看護大、岐阜県立看護大、岐阜薬科大、名古屋工業大、愛知教育大、名古屋市立大、愛知県立大2、滋賀県立大、京都府立大2、京都府立医科大、大阪府立大2、神戸市外語大、防衛大学校2</p> <p>【私立大学】</p> <p>麗澤大3、慶応大、早稲田大、明治大6、立教大3、中央大2、青山学院大4、法政大3、東京理科大3、北里大2（2）、駒沢大、獨協大、芝浦工大、専修大、大正大、玉川大、亜細亜大、東洋大6、日本大3、東京農大2（2）、岐阜聖徳学園大8（1）、岐阜女子大、南山大8、名城大10、愛知淑徳大9、愛知大2、中京大10（2）、中部大10（1）、金城学院大4（2）、愛知学院大3、愛知工業大、椋山女学園大5、名古屋外大13、名古屋学芸大、皇学館大4、鈴鹿医療科学大、同志社大7、立命館大14、同志社女子大、龍谷大6、京都女子大、佛教大3、京都産業大2、関西大4、近畿大3、関西学院大、武庫川女子大 など</p> |
| <p>生徒指導部</p> | <p>1) 教員間での生徒情報の共有と問題行動への適切で迅速な対応を図るために、生徒情報を全教員に速やかに周知し、情報を共有できる体制づくりを推進する。</p> <p>2) 環境美化を推進するため、生徒会美化係と連携しチェック体制を強化するとともに、相談やアドバイスをを行う。また、トイレなどの改修箇所についての掃除方法を改善し美化に努める。</p> <p>3) 生徒や教職員の交通安全意識の向上を図るために、担任部と連携し、外部講師による交通安全教室の実施を推進する。</p> <p>4) 広く問題となっている「情報モラル」について、外部講師による情報機器の使い方講座などを担任部と連携して計画し推進していく。</p> | <p>1) 毎週一回各部署の責任者が集まり、集団や個人の報告会を開いた。その情報をまとめて全教員で共有した。また、その情報をもとに共通指導ができるよう努めた。</p> <p>2) 交通安全意識の向上を目指し、担任部と連携し、自動車学校に依頼して1年生と4年生に対して交通安全教室を実施した。</p> <p>3) 広く情報モラルが課題となっており、担任部と連携して、今年度は4年生対象で外部講師による情報モラル教室を実施した。</p> <p>4) 生徒の動向の把握、問題行動の未然防止・早期発見、交通事故防止、マナーアップなどを目的として、校内・学園内・瑞浪駅・昼食時の食堂など、全教員当番制で巡回指導した。</p> |
| <p>特活指導部</p> | <p>1) 代議員会や生徒会委員会の充実を図り、生徒が参加しやすい生徒会活動を推進する。また現在、生徒会執行部の行っているボランティア</p> | <p>1) 生徒会活動では、今年も土岐川流域清掃のボランティアに参加するなど地域に貢献することができた。これからも機会をとらえ</p> |

ア活動やあいさつ運動への参加を広く全生徒に呼びかけて、学校全体で取り組んでいく。

- 2) 中高ともに実施している学期ごとの生徒会行事を充実させる。
- 3) 中高の部活動の主将に週1回主将ファイルを提出させ、部活動の活動内容を確認して状況を把握しながら対応していく。また、校内にある部活動掲示板の活用を更に推進していく。
- 4) 特別強化指定部、強化指定部の支援体制を一層充実させ、競技力の高い生徒が集まるような環境づくりに向けて、人的・物理的サポートを行っていく。

てボランティア活動に参加していきたい。

3学期の生徒会行事も楽しく実施することができた。

- 2) 各部活動とも熱心に活動していた。今年も水泳部の中学生女子の活躍が素晴らしかった。バレー部も県大会に出場し1勝を上げることができた。

- 3) 剣道部女子の全国高校総体連覇に全校生徒が勇気づけられた年であった。また男子剣道部も昨年の全国選抜剣道大会準優勝、今年の全国選抜剣道大会でも3位と、全国制覇まであと一步の所まで来ている。高校男子テニス部、高校陸上部男子も東海総体、東海選抜出場を果たした。

◎中学校（県大会8位以上のみ表示）

■東海大会

- 水泳部 女子個人（中体連東海大会出場）
- 水泳部 女子リレー（中体連東海大会出場）
- 陸上部 男子個人（中体連東海大会出場）
- テニス部 男子団体（東海地区中学テニス選手権大会出場）
- 男子団体（東海地区中学新人テニス大会出場）
- 女子団体（東海地区中学新人テニス大会出場）

■県大会（8位以上）

- 卓球部 男子個人（東海卓球選手権出場）
- 女子個人（東海卓球選手権出場）
- 陸上部 男子個人（中体連県大会 6位）
- 男子個人（岐阜県 Jr 陸上大会 6位）
- 水泳部 女子個人（中体連県大会 3～7位 3種目）
- 女子個人（岐阜県室内 スプリント 優勝）
- ゴルフ部 男子個人（岐阜県ジュニア ゴルフ 3位）
- テニス部 男子個人（全中岐阜県予選 ベスト8）
- 英語弁論 女子個人（高田宮杯中学校 英語弁論大会）
- スキー 男子個人（全国中学生 スキー大会出場）
- 男子個人（スキージュニア オリンピックカップ出場）

◎高等学校（県大会 3 位以上のみ表示）

■全国大会

剣道部

- 男子団体（全国高校総合体育大会ベスト 16）
- 女子団体（全国高校総合体育大会優勝 2 連覇）
- 男子個人（全国高校総合体育大会出場）
- 女子個人（全国高校総合体育大会 3 位）
- 男子団体（国民総合体育大会 ベスト 4）
- 女子団体（国民総合体育大会 ベスト 16）
- 男子団体（全国高校選抜大会 3 位 ）
- 女子団体（全国高校選抜大会 ベスト 16）

テニス部

- 男子個人単（全国高校総合体育大会ベスト 32）
- 男子個人複（全国高校総合体育大会ベスト 16）
- 男子個人（国民体育大会出場）

弓道部

- 女子個人（全国高校選抜大会出場）

自然科学部

- 男子個人（全国聞き書き甲子園出場）
- 女子個人（全国聞き書き甲子園出場）

■東海大会

剣道部

- 男子団体（東海高校総合体育大会 優勝）
- 女子団体（東海高校総合体育大会 優勝）
- 男子個人（東海高校総合体育大会 優勝）
- 男子個人（東海高校総合体育大会 5 位）
- 女子個人（東海高校総合体育大会 優勝）
- 女子個人（東海高校総合体育大会 2 位）
- 女子個人（東海高校総合体育大会 5 位）
- 男子団体（東海高校選抜大会 優勝）
- 女子団体（東海高校選抜大会 3 位）

テニス部

- 男子団体（東海高校総合体育大会出場）
- 男子シングルス（東海高校総合体育大会ベスト 8）
- 男子ダブルス（東海高校総合体育大会ベスト 4）
- 男子シングルス（全日本ジュニア東海予選出場）
- 男子ダブルス（全日本ジュニア東海予選出場）
- 男子団体（全国選抜東海地区大会 8 位）
- 男子シングルス（東海毎日ジュニア選手権大会出場）
- 男子ダブルス（東海毎日ジュニア選手権大会出場）

陸上部

- 男子個人（東海高校総合体育大会出場）
- 男子個人（東海陸上競技選手権出場）
- 男子個人（東海高校新人陸上大会 7 位）
- 男子個人（東海高校新人陸上大会出場）

水泳部

- 男子個人（東海高校総合体育大会出場）

| | | |
|----------------------|---|---|
| | | <p>女子個人（東海高校新人水泳大会出場）</p> <p>女子リレー（東海高校新人水泳大会出場）</p> <p>弓道部</p> <p>女子個人（東海高校選抜大会出場）</p> <p>卓球部</p> <p>女子団体（全国選抜東海予選会出場）</p> <p>■県大会 3 位以上</p> <p>剣道部男子、剣道部女子、テニス部男子、サッカー一部、陸上部男子、弓道部女子、水泳部男子、水泳部女子、卓球部女子、太鼓部、吹奏楽部</p> |
| <p>自学センター</p> | <p>1) 教務システムの運用を軌道に乗せ分業化を図るため、他部署と連携を取りながら利用マニュアルなどの整備を進める。</p> <p>2) 平成 28 年度に予定されている校内ネットワーク機器の更新に向けて、タブレット化やクラウド化などこれからの教育情勢を勘案しながら、本校の学習環境を一層向上させるためのネットワークの基盤整備計画を検討する。</p> <p>3) 電子黒板やタブレットなどの学習効果を高める機器や学習システムの積極的な導入と活用を検討し、生徒の学力や能力育成のためにより一層の支援を行う。</p> <p>4) 生徒や教職員の貸出冊数が順調に伸びてきた図書整備においては、書籍の種類や室内環境のより一層の充実を目指し、高い志や幅広い知識を持った生徒の育成につながる活動を継続していく。また、公共物としての書籍に対する意識の向上を促す。</p> | <p>1) 定期考査の処理手順の検討や複合機の運用マニュアルの作成支援など、他部署と連携を取りながら機器利用の向上に努めた。また次年度のネットワーク更新に備え、既存機器の状況の確認や計画の検討を進めた。</p> <p>2) 積極的に電子黒板を利用した授業や進学講座が行われるなど、意識的に視聴覚機器を利用し、効果的に授業に活用する教員が増えてきており、電子黒板の増加要望が出るまでになってきた。</p> <p>3) 自学センターの廊下側に面したパーティションの窓ガラス全面に飛散防止フィルムの施工を行った。これにより廊下やコモンホールなどの生徒の避難経路の安全性を高めることができた。</p> <p>4) 自学センター内図書スペースや自習スペースの環境整備に常日頃より努めるとともに、新入生に対して図書利用オリエンテーション、図書委員や教員によるお勧め本を紹介するコーナーの設置、授業での調べ学習への支援などを行っている。年間の貸出冊数が延べ 2 万冊を超える現在でも、利用数と質が伸び続けている。</p> |
| <p>研究部</p> | <p>1) 寮内体験発表会、人権学習、ニューモラル学習などを企画し、これらの学習を通して生徒によりよい生き方を求める力を育てる。</p> <p>2) 教職員研修の計画運営において、本校の重点目標に即した外部講師を招聘し、教職員の資質の向上を図る。また、新規専任採用教員への研修計画も含め、初任者や近年採用者に対する研修制度の充実を図る。</p> | <p>1) ニューモラル学習では、昨年からは始めたワークシートの活用をさらに進めて担任の創意工夫を促し、内容を充実させることができた。寮内体験発表会では生徒自らが自己の気づきを互いに発表し、それを「生徒体験発表集」にまとめて配布して相互啓発をすることができた。昨年からは学校行事として開催している「伝統の日感謝の集い」は内容をさらに充実させて、生徒にも印象に残る行事となった。</p> <p>2) 年間三回開催している教職員研修会では、進路指導、グローバル教育、道徳教育に関する外部講師を招聘し、教職員のスキルアップを図ることができた。また、県教育センターの</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| | | 講習に複数の教員を派遣して、資質の向上を促すことができた。初任者研修、初担任研修においては内容を精査し、より円滑な業務の推進をサポートすることができた。また、夏季には教職員に働きかけてレポートを回収し、研究紀要として製本・発行し教職員の間で相互啓発をすることができた。 |
| 広報部 | <p>1) パンフレットやポスターをはじめとする広報媒体を見直し、より効果的な資料の作製を行う。</p> <p>2) 寮生を増やすために、寮教育の魅力・利点を整理して、全国の卒業生や公益財団法人モラロジー研究所の維持員を対象に広く情報を発信する。</p> <p>3) きめの細かい募集行動を起こすとともに、学校見学会の方法を見直し、新しいプレゼンテーション資料を作成する。</p> | <p>1) 学校の広報用パンフレットを全面改定した。高校用パンフレットは配布先を見直し、印刷部数の全てを配布することができた。</p> <p>2) 学校見学会は、中学校対象を3回、高校対象を5回行った。体験入学も中高を分けて行った。各回ともに前年までの反省点を創意工夫し、想定以上の集客ができた。</p> <p>3) 東濃地区を中心に愛知県、長野県等、東海地区に範囲を広げて塾訪問を行い、塾とのパイプ作りを含む戦略的な募集活動を行った。</p> <p>4) 寮生確保のために麗澤会を通じて、ニュースなどを適齢卒業生に送付した。また、寮のある学校説明会、地方責任者研修会などで、寮の魅力アピールした。</p> <p>5) HPは年間を通じて定期的な更新ができた。駅前の垂れ幕掲示や印刷物などの他の広告媒体も有効に活用できた。</p> |

VI. 中期計画と評価

| 所管部 | 事業計画 | 評価 |
|---------------|---|--|
| 校長・教頭 事務部長 | <p>1. 生徒の安定的確保</p> <p>1) 募集目標数の達成 平成21年度の779人をピークに3年間でおよそ100人減となった生徒数は、25年度に減少が止まり、26年度は対前年度20人増となった。27年度は、当面の募集目標数である765人(中学生225人、高校生540人)に向けて募集活動の強化と改善を図り、平成28年4月時点で740人(中学生240人、高校生500人)の生徒数を確保する。</p> <p>2) 広報力の強化 平成26年度に委託をした三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による調査と提案を参考にして、効率的なマーケティング・市場開拓を行っていく。特に寮生の募集については、麗澤会員への広報や、公益財団法人モラロジー研究所の協力の</p> | <p>1) 募集目標数の達成：中期目標において、平成28年度4月の在籍生徒数を740人(中学生240人、高校生500人)と設定して広報活動を行ってきた結果、755人(中学生238人、高校生517人)の生徒数を確保することができた。中期計画最終年の平成29年4月の目標を765人(平成24年度比85人増)と設定しているため、目標達成に向けて一層努力したい。</p> <p>2) 広報力の強化：コアネット教育総合研究所との協力関係のもとで、専任の広報担当者を1人雇用して近隣の塾に対する広報を強化した。塾訪問活動の効果は、受験者数の増加や来校者の増加など、特に中学入試において顕著にあらわれたと思われる。</p> |

| | | |
|-------------------------------------|--|---|
| | <p>下で、同研究所維持員・地方責任者への情報発信にも努めていく。</p> | |
| <p>校長・教頭 事務部長</p> | <p>2. 教育の充実</p> <p>1) 寮の収容定員の充足</p> <p>平成 26 年度の寮生数は 380 人（中学生 100 人、高校生 280 人）であったが、目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて全国的な広報活動を行う。特に新設の兄弟姉妹・卒業生対象の寮費減免制度などを活用して寮生の一層の確保に努める。</p> <p>2) 寮指導体制の改革</p> <p>寮を担当するチューターの勤務体制の改善を図り、適正な勤務時間の確立に向けて引き続き検討を重ねる。また、本校の教育理念を体現した指導方法を整えるために、指導マニュアルの作成を行う。</p> <p>3) 中高一貫体制の構築</p> <p>学力の向上と進学実績の向上を目指して中高一貫教育体制を整え、英語や数学などの教科の先取り学習と習熟度別学習を展開する。</p> <p>4) グローバル人材の育成</p> <p>ホームルームや総合学習の時間を活用して、日本人としての誇りと自信を持ったグローバルな思考のできる人材の育成に努める。また、3 年生のオーストラリア研修や 5 年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムの充実と改善を推進する。</p> <p>5) 特色ある学校行事の創設</p> <p>平成 25 年度に創設したプロジェクト委員会の答申に基づいて、年間を通じた学校行事の見直しを行い、建学の精神と愛校心の涵養、道徳教育実践の機会としての行事の導入を引き続き検討する。</p> | <p>1) 寮の収容定員の充足：中期計画最終年の目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて広報活動を行ってきた結果、平成 28 年度 4 月の寮生数は 425 人（中学生 109 人、316 人）となったので、次年度は目標を達成できるように努力したい。</p> <p>2) 寮指導体制の改革：麗澤教育の理念を体現した指導マニュアルの整備については不十分であったので、次年度以降も推進していきたい。</p> <p>3) 中高一貫体制の構築：中高一貫教育体制のカリキュラム上の整備については、プロジェクトチームによって何度も検討を重ね、先取り科目の設定も含めてカリキュラムをほぼ完成をさせることができた。</p> <p>4) グローバル人材の育成：3 年生のオーストラリア研修や 5 年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムについて検討を重ね、旅行業者の選定も含めておおよその計画を作成することができた。</p> <p>5) 特色ある学校行事の創設：プロジェクト委員会による会議を継続的に行って学校行事等の見直しに取り組んできた。中学生の総合学習の時間における「日本文化体験」学習プログラム（R I S E）については、27 年度に 1 年生を対象に 6 つのコースからの選択制により年間 12 回実施することができた。</p> |
| | <p>3. 経営改革</p> <p>1) 教育活動収支の赤字幅の削減</p> <p>教育活動収支が悪化して赤字幅が膨らんでいるので、生徒数の増加と業務の効率化による人件費の抑制により教育活動収支の改善を目指す。赤字幅の縮減がどこまで可能</p> | <p>1) 生徒数の増加による収入増と人件費の抑制による支出減によって赤字幅が減少するように、今後も努めていきたい。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | か不明確な部分が多いが、生徒数の増加が見込めれば、収支の改善は順次達成可能となる。 | |
|--|---|--|

Ⅶ. 学校評価アンケート調査集計結果

本校ホームページ公開資料参照

以 上